

向陽

〒780・8014 高知市塩屋崎町1丁目1-10 TEL(088)833-4394 FAX(088)833-7373

<http://www.tosaobog.com>



双子のお嬢さんに囲まれて

高知城の思い出

佐々木泰子ひろこ(33回生・旧姓前田)

「ふるさと」はいいもんだ。
 南国の青い空をバックに、スツ
 と浮かんでいる天守閣と、堂々
 たる追手門が一つの絵になって
 いる高知城は、実に美しい。私
 のふるさと自慢の一つだ。

思い出もいっぱいある。帯屋
 町の実家から歩いて一〇分。子
 供の時、愛犬と朝の散歩によく
 走って行った。日曜には市のた
 つ追手筋を通り、追手門に入る。
 じゃり石を踏み、板垣退助像の
 傍を通り(ここではいつも「板
 垣死すとも自由は死せず」と手
 を上げるのがクセ)、段差のあ
 る石段を駆け上がっていく。山
 内一豊の妻千代の像あたりで一
 息つく。さらに石段を登り、天
 守閣のある広場へ。うっすらと
 汗をかいた額に、朝の空気の何
 と気持ち良いこと！高知市内
 を一望しながら、大きく深呼吸
 してさわやかな空気をいっぱい
 吸いこむ。ちよつと坂を下り桃
 の段を通って……やがて元の追
 手門に戻る。そこからは、一気
 に追手筋のやしの樹の並木道を
 走って、我が家に帰る。

この大好きな高知城のあちこ
 ちで子供達を描いた絵は多い。
 御台所屋敷跡の桃の段には、小



「2006 ホーム カミング デー」

門をくぐれば、あの頃の自分に会える。

■日時／平成18年8月12日(土) ■場所／土佐中・高等学校

プログラム		
同窓会総会	11:00~12:20 [体育館]	●開会 ●校歌斉唱 ●会長挨拶 ●学校近況報告 ●物故会員に黙祷 ●議長選出 ●事業報告 ●支部活動報告 ●審議 等
特別授業 特別講演	13:00~13:40 [各教室]	恩師による懐かしの「授業」の復活と同窓生による「特別講演」。 ①正木 哲夫先生(数学) ②都築 房子先生(美術) ③井上 聖香先生(英語) ④高井 康賢さん(41回生)
記念コンサート	13:50~15:00 [体育館]	49回生のバンドによる特別コンサート(60~70年代のフォークソング) 恒例のサマー・コンサート。 「現役プラスバンド部」と「土佐高OBバンド」の共演!
食堂開放	11:00~14:00 [食堂]	現役土佐校生のメニュー(有料)をお楽しみ下さい。 くろ・しろ・まいろもあります。
懇親会	17:00~ [得月楼 本店]	[得月楼 本店] 南はりまや町1丁目17-3 Tel.088-882-0101 会費:5,000円(当日、会場にて徴収します。) ●ビール ●日本酒 ●皿鉢料理 等

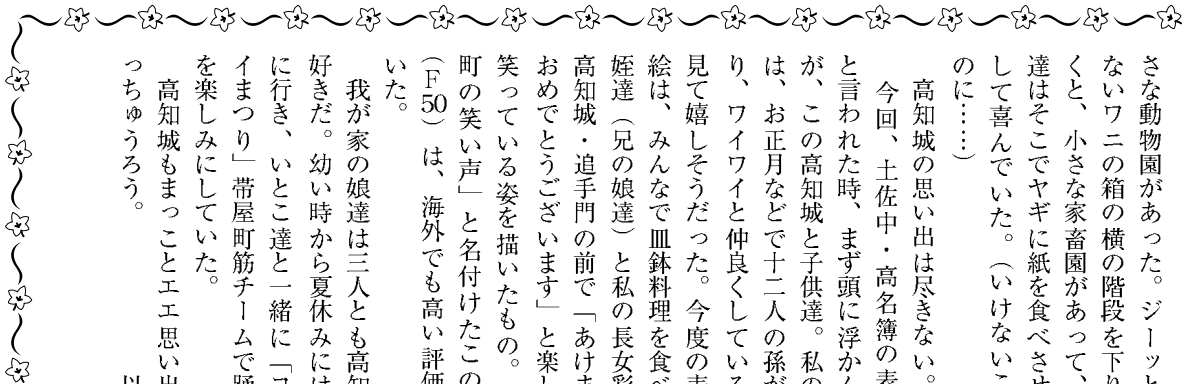
さな動物園があった。ジーツと動かないワニの箱の横の階段を下りていくと、小さな家畜園があって、子供達はそこでヤギに紙を食べさせたりして喜んでいた。(いけないことなのに……)

高知城の思い出は尽きない。

今回、土佐中・高名簿の表紙を、と言われた時、まず頭に浮かんだのが、この高知城と子供達。私の父母は、お正月などで十二人の孫が集まり、ワイワイと仲良くしているのを見て嬉しそうだった。今度の表紙の絵は、みんなで皿鉢料理を食べた日、姪達(兄の娘達)と私の長女彩乃が、高知城・追手門の前で「あけましておめでとうございます」と楽しげに笑っている姿を描いたもの。「城下町の笑い声」と名付けたこの作品(F50)は、海外でも高い評価を頂いた。

我が家の娘達は三人とも高知が大好きだ。幼い時から夏休みには高知に行き、いとこ達と一緒に「ヨサコイまつり」帯屋町筋チームで踊るのを楽しみにしていた。

高知城もまっことエエ思い出にな
つちゅうろう。
以上





8月12日晴天に恵まれ、土佐中・高等学校同窓会2006ホームカミングデーを成功裡に開催することが出来ました。今年で3回を数える母校での交流の場をご提供下さった池上校長先生を始め、教職員の皆様にはご多用中の所、大変さめの細かい、お心遣いをいただきました事に、この場をお借りし、重ねて厚く御礼申し上げます。

ホームカミングデーは、同窓生と教職員の皆様そして在校生によって紡がれた、まさに土佐中・高等学校ならではの素晴らしい作品となりました。

協力一致奮いして取り組みれば、不可能か可能になる事を目の当たりにし、関係者一同、たくさんの事を学ばせていただくことが出来ました。また、



母校創立100年に向けて良き伝統を引き継ぎ将来に向かって邁進する力強い絆は、時代の変化や社会情勢の様々な難題をもろともせず、乗り越えていく活力となっている事を感じました。

ホームカミングデーのテーマ「門をくぐれば、あの頃の自分に会える」の言葉のように、皆様それぞれ、母校での楽しかった日々を思い起こしながら、何か大切な宝物を見つけていただけたのではないのでしょうか。

お母さんの優しい手に引かれて記念授業に参加されたお子様の姿が愛らしく、とても印象的でした。次代を担う子どもさんたちが我が母校、土佐中・高等学校の門をくぐり、その心に母校の歴史と文化が学舎から伝わり、素晴らしい人格が形成される事がこれからも、必ず実現する事を確信いたしました。

母校の歴史的な大事業がいよいよ始まりました。

良き学舎の文化を願う多くの人々の心の輪が広がっていく事を衷心よりご祈念申し上げ実行委員長としてのご挨拶とさせていただきます。

実行委員長 西山 彰一 (48回生)

「おかえりなわい、 戸田浩司くん」

去る八月十二日、同窓会総会に元気な姿で戸田浩司くん（80回生）が登場しました。彼の闘病を応援し、骨髄バンク登録運動に奔走した土佐中・高等学校同窓会に対し、総会の場でお礼の言葉が述べられました。

（お礼の言葉抜粋）

定期健診の結果もよくなっていて、今は元気に毎日を過ごしています。僕の入院中大変多くの方々にご支援いただき本当に感謝の気持ちでいっぱいです。入院中何もできない僕に代わり、骨髄バンクの輪を広げていただき、その結果多くの人にドナー登録をしていただきました。もしかすると、僕をきっかけとして誰かの命が助かったかもしれないと思うと少しばかり誇りに思うことができます。

今はとにかく野球がしたいので、早く復帰できるようにがんばっています。またもう一度マウンドで投げられるように、今後も応援よろしくお願いします。みなさんの優しさを今度は僕が僕の生徒になった子供たちに伝えていきたいと思っています。本当にありがとうございます。

正木 先生

川崎 洋輝 (37回生)

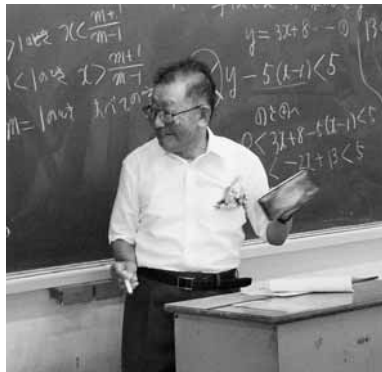
正木先生の特別授業は、昭和37年の中3の1学期中間テスト(代数)の問題を題材に、解答を解説する形で進められました。

テストがなくて内心ホッとしたのは私だけではなかったようです。

「忘れた」、「難しい」あるいは「今の方が解ける」など色々な囁きが聞こえる中、先生の解説が淡々と進められ、いつしか数十年前の世界へタイムスリップしたような気分になりました。

読みやすい字、明解な解説、温厚な表情など、現役時代とほとんど同じで、黒板へ大きな円を描く得意技も披露していただきました。

40分間のつかの間の授業でしたが、先生のお元気を拝見し、何か新たな気力が湧いてきたような気がしました。80歳を迎えられた正木先生のご健康とご多幸を心からお祈り致します。



● 特別授業

筒井康賢 さん (41回生)



矢野 公士 (62回生)

今回は、懐かしの授業というわけではありませんでしたが、「文系頭」の私にとって、新鮮なお話が聞けるのではないかという期待のもと、講演を聞かせて頂きました。

やはり期待通りで、パワーポイントを使い、しかも粘土を鉄に見立てて実際に実演して頂くなど、楽しく分かりやすい講演でした。技術大国ニッポンを支えてきたのは、多くの中小企業の最先端技術であるということを改めて実感しました。

● 特別講演

八木 勝二 (51回生)

ホームカミングデーとともに恒例化されつつある卒業30周年の学年特別行事。いつの間にか幹事長のような立場になり、メンバーを随意に集めたのが昨年の暮れ。各ホーム2名程度の幹事を集め、それがたった3回の打ち合わせ会で、見事な感動と余韻の行事が行えました。

当日やった内容は、昼には学校の大きい教室をお借りして 浜田教頭のHR 土居先生の古文 中沢先生の英語という超豪華3本立て。国会議員氏を含む約60名がタイムスリップ30年をしました(直木賞作家は欠席)。

夜はホテルの会場で大懇親会。100余名の参加となり、目玉の「32年前の仮装行列の映像」を機軸に大いに盛り上がりました。当然2軒目、3軒目と続き、一部の人は翌朝早くからゴルフに出かけていました。

改めて「土佐高の底力」を感じました。あれだけの事をするのに、3時間程度の打ち合わせとメール交換で、それぞれの得意分野で動いてくれて素晴らしいものが出来たからです。事務系・企画系・交渉系・根回し系・IT系・裏方系・行動系等々、瞬時に役割が出来るところが土佐高の土佐高たるゆえんであるとしみじみ思ったこの行事でした。早くも「50歳記念(来年なんです)大懇親会」をやるうという声もあがっています。



(5)

都築 先生



宮野 伊知郎・優子 (63回生)

ホームカミングデーに参加するのは2回目です。1昨年初めて参加した際は、16年ぶりに訪れた母校に強烈な懐かしさを感じ、夫婦そろってハイテンションで「懐かしい!!」を連呼しながら、校内をくまなく回って写真を撮りました。今回はさすがにやや落ち着いた気持ちで参加したものの、食堂でラーメンを食べていると、やはりしみじみと学生時代を思い起こしました。今回は都築先生の特別授業に出席しました。授業の前に教壇で立体作品を組み立てている都築先生を見ながら、「どんな授業だろう」とワクワク。思えばこんな風に授業が始まるのを楽しみに待ったことは中学・高校時代にはあまりなかったような気がします。授業が始まってみると、なんと同級生が私達の他に4人も出席していました。新聞などで時々活躍の様子を目にする都築先生ですが、海外で作品展を行われたときのエピソードなども披露して下さいました。「自己の内面を表現することが、精神を健康に保ち、生涯にわたっていきいきと生きていくために重要である」という都築先生のお話は、今自分が30代後半という年齢になっているからこそ、とてもストレートに心に響いたような気がします。この日以来、練習をやめてからもう15年以上になるピアノをもう一度やり直してみようかと決心しました。主人も何か楽器を習いたいと思いつめたようです。いつかは友達を招いて夫婦でミニコンサート、なんて夢を与えてくれた都築先生の授業でした。

特別授業

井上 先生

前田小百合 (61回生)

私たち61回生にとって、この夏のホームカミングデー目玉行事の一つは、なんとと言っても井上聖香先生による特別授業でした。聖香先生の笑顔やお声は、以前とほとんどお変わりないようです。私もすっかり生徒の気分に戻り、「今日は、どんなお話しをしてくださるのだろう」と期待で胸が躍ります。

先生は、文芸誌『Chit Chat』掲載の英文、授業で用いたアメリカン・ジョークのイラスト、英語駄洒落、発音講座、そして英詩『What color is love?』などを取り上げ、さまざまに当時の授業風景を再現して下さいました。この特別授業を通して聖香先生が私に教えてくださったこと。それは、聖香先生が私たちに英語の面白さを存分に教えてくださったということです。

現在、私は追手前高校で英語を教えています。あらためて自分の原点を大切に、これからも努めていきたいと思えます。ほんとうにありがとうございます。



特別授業

尾石 敦 ほかメンバー一同 (49回 Nホーム)

ホームカミングデーでは猛暑の中スタッフの方々は大変だったことと思います。

この度は、我々のバンド「べんべん草」が思いがけなく、あこがれ(?)の体育館で演奏することができ難うございました。メンバー全員が49回生で、中学生の頃から拓郎だ、かぐや姫だと始めたバンドを当時のメンバーのまま、いまだに続けてやっています。あの頃を知る方々にはちょっと懐かしく感じていただ



たのではないのでしょうか。学生の頃は向陽祭での体育館がメインステージでした。当時できたばかりの体育館で演奏した気持ちよさを忘れることができず、当時から良き理解者であった西峯先生にふと、体育館でもう一度歌ってみたいと話したところ、この機会をいただくことができました。暑くて大変でしたが、あの頃を思い出しながら懐かしく演奏することができました。スタッフの皆様方、あの暑い体育館で内輪片手にお聞きくださった皆様方、そして、機会を下された恩師西峯先生に感謝申し上げます。

土佐中・高等学校同窓会「2006ホームカミングデー」実行委員会

●委員長：西山彰一(48) ●副委員長：谷 晃(49) ●副委員長：八木勝二(51) ●総務・広報部長：岡田容典(47) ●総務・広報部副部長：北村恵美子(47) ●イベント部長：宮地貴嗣(61) ●イベント部副部長：門田幹也(60) ●会計：干頭裕(58) ●企画サポート：村山隆司(59)

本部活動報告

幹事長 安岡 範悦(39回生)

一、総会の開催

母校での開催も三年目を迎え、ホームカミングデーが定着して参りました。年々、家族連れの若い世代の同窓生が増えているのは、大変喜ばしいことです。

土佐の伝統を築いて来られた同窓諸先輩と、それを受け継ぐ同窓生たち、次代を担うお子さんたちが一同に会することは、大変意義深いことです。本年度のキャッチフレーズは「門をくぐれば、あの頃の自分に会える」でした。その「門」は、回生によって違っておりますが、「門」をくぐれば、土佐校生として過ごした「あの頃」は、全く同じ輝きをもって、それぞれの同窓生の胸に去来したことと思います。

今回の特別授業は、恩師の先生としては、正木哲夫先生、都築房子先生・井上聖香先生にお願いし、また、関東支部ホームページ編集人の筒井康賢さん(41回生)に教壇に立っていただきました。記念コンサートは

49回生の現役バンドが初登場。六〇〜七〇年代のフォークソングで会場を大いに盛り上げていただき、お馴染みとなった現役生とOBブラスバンドのコラボは、回を重ねるごとに息がピッタリ合い、素晴らしい演奏を聴かせていただきました。コンサートの終わりには、昨年末発行の運びとなった同窓会名簿の表紙に、素晴らしい絵を描いていただきました佐々木泰子さん(33回生)に、同窓会から感謝状を差し上げたことを付け加えさせていただきます。また、食堂を開放し、40回生代から50回生前半の土佐校生にとっては忘れられない「くろ、しろ、きいろ」をはじめ、現役の土佐校生メニューを楽しんでいただきました。

得月楼での懇親会にも、たくさん同窓生に出席していただき、「向陽の空」「青春わかき 血潮はたぎる」を斉唱し、大盛会のうちに終了いたしました。

二、二〇〇七年ホームカミングデー

・同窓会総会日時決定について

二〇〇七年のホームカミングデー・同窓会総会は二〇〇七年八月十二日(日)土佐高校で開催すること、また、今後の同窓会総会は、原則としてお盆の休日のいずれかで開催し、日時・総会の概要については会長、副会長、幹事長、副幹事長、会計幹事の合議による決定に一任することが決定されました。

三、クラブ活動活性化の為の

助成金の寄付について

また、役員会で決定されておりました「クラブ活動活性化の為の助成金」についても総会で承認され、スポーツ・文化部の助成金として二〇〇万円を学校に寄付いたしました。今後益々のクラブ発展がより土佐校を活力あるものにしてくれるものと期待します。

四、同窓会名簿、

ヤグラグラフィティについて

昨年十二月に発行致しました創立八五周年記念同窓会名簿は、従前と

異なり予約した方に発送させていただいております。まだ若干の余裕がありますのでご入り用の同窓生は、事務局(〇八八―八三三―四三九四千頭)までお申し込み下さい。振込用紙を送らせていただきます。なお、名簿をお求めいただいた方には、大好評のヤグラ・グラフィティを進呈致します。

□役員

会長	宮地貫一	(21回)
副会長	溝渕真清	(32回)
副会長	岡内紀雄	(34回)
副会長	横田整二	(40回)
副会長	川崎康正	(42回)
副会長	北村恵美子	(47回)
幹事長	安岡範悦	(39回)
副幹事長	岡田容典	(47回)
副幹事長	西山彰一	(48回)
副幹事長	宮地貴嗣	(61回)
副幹事長	矢野公士	(62回)
会計	千頭 裕	(58回)
会計監査	森木将雄	(32回)
会計監査	田中章夫	(40回)

初秋の候、同窓生の皆様にはご清勝のこととお慶び申し上げます。

平素は母校に対し格別のご支援を賜り、有難く御礼申し上げます。

私の不手際から色々と紆余曲折があり大変ご心配をお掛けしました新校舎建築プロジェクトが、御蔭様でようやく順調に進展しておりますので、その状況を報告申し上げます。

一、新校舎建築計画検討委員会からの答申

岡村甫氏（32回生、本校理事）を委員長として同窓会、振興会、学校の委員からなる委員会で熱心な検討をいただいた結果、(一)耐震補強ではなく速やかに校舎、体育館を新築する。(二)基本コンセプトは以下三点とし具体化する為の詳細については教職員の見解を尊重し決定する。A：安全で健康的な環境、B：より高いレベルでの文武両道の達成を可能にする環境、C：より豊かなコミュニケーションを可能にする空間

資金については基本コンセプトを実現しうるもので且つコンパクトなものとし、保護者負担をできる限り少なくするよう最大限の努力をする。

以上の答申をいただきました。

二、基本コンセプトについて

新校舎の基本コンセプトについて少し詳しく申しあげます。

A：安全で健康的な環境については

- ①校舎は免震構造を採用、②ゆとりのある空間として教室、廊下、階段等の拡張、③明るく清潔な空間として食堂、トイレ、手洗等の改善充実

B：より高いレベルでの文武両道の達成可能な空間については

- ①コンピュータやAV機器などのメディアを効率よく利用できる配置、②自習と自主的進路選択のため生徒自身で操作できるシステムの構築、③多様な授業を可能にする教室や設備の設置、④クラブ活動や学校行事をのびのびとできる空間の設置

C：より豊かなコミュニケーションを可能にする空間については

- ①生徒が先生に質問や相談をしやすい談話



学校近況ご報告

学校長 池上 武雄

- ②生徒同士で楽しく語らうことのできるスペースの確保、③保護者会や学年会などを校内で容易に開くことのできるスペースの確保、④職員室の在り方の見直し、⑤同窓生や地域の方々とも交流できる空間の設置、といつもの事です。

三、プロジェクトの概要

- (一)塩屋崎町の現在地に新築、(二)校舎、大体育館、小体育館、プールを新築、延べ床面積一七、五〇〇平方m（プールを除く）、(三)駐輪スペースは一、五〇〇台分を確保、(四)校舎は先進の免震構造、(五)工期は二年程度を予定（仮校舎は現地に）、(六)体育館は全期間使用可

能とする、(七)総事業費は四三億三千万円。

四、プロジェクトの具体的進め方

- CM方式を採用する。
CM (Construction Management)方式とは建設事業において発注者の立場に立つコンストラクション・マネジャー (CMR) が、設計、発注、施工の各種マネジメント業務の全部または一部を行うもの。CMRには、応募いただいた七社の中から学校建築を含めて優れた設計実績を持つ(株)三菱地所設計を選び契約いたしました。

五、今後のスケジュール

- (一)設計業者の選定……………平成一八年一〇月上旬
 - (二)設計業務終了……………同一九年三月末
 - (三)長浜グラウンド完了……………同一九年三月末
 - (四)工事発注・着工……………同一九年七月末
 - (五)工事完了……………同二二年八月末
- 以上を予定しております。

六、資金計画について

岡内紀雄氏（34回生、本校理事）を座長とする資金関係専門分科会で校舎新築プロジェクトに関する資金計画構想をご提案いただき、評議員会、理事会で承認をいただきました。総事業予算四三億三千万円（含む長浜グラウンド造成費）。調達は、自己資金五億円、募

金三億五千万円、長期借入金三四億八千万円とするものです。また償還財源として、学納金の値上げを平成一九年度からお願いする旨も理事会で承認いただきました。

学納金の値上げ…
平成一九年度より①授業料三千円値上げのほか、②入学時納付金として建設協力金、中学一〇万円、及び③学校債一〇〇万円（卒業時返却）をお願いするご意向いたしました。また土佐中から高校への入学金についても四万円の値上げを、平成二一年度（校舎完成年度）からは、教育設備充実費を三千円値上げのほか、他中学から土佐高への入学時に建設協力金二〇万円をお願いすることいたしました。

地方経済回復も未だ厳しい折柄、保護者の皆様にご負担をお掛けすることには誠に心苦しい極みではありますが、本校の置かれた現状をご理解いただき、土佐中・高が百周年を目前にしてこれからも限らない発展を続けてゆく為にはどうしてもやり遂げねばならぬ事業として、保護者の皆様にご理解とご協力をお願いしているところです。同窓生の皆様にも追って基本設計が固まり次第、完成予想図などを添付して募金をお願い申し上げます。

平成一八年九月

現役選手 武道

中学英語弁論大会

知事賞に松岡さん

18校から32人 中央大会へ3人



入賞した(左から)松岡さん、井上さん、茂松さん、山本君、服部君(高知市の県教育センターで)

「高知県杯第58回全日本中学校英語弁論大会」の県大会が1日、高知市大津の県教育センター1で開かれ、県内の18校から27人が参加した。最優秀の知事賞には高知市立城東中3年松岡清輝さん(14)が輝き、県教育長賞に私立壬佐中2年服部雄人君(14)が輝き、育文化祭賞に同校3年山本博隆君(14)が選ばれた。

通常、上位3人が11月に開催の中央大会へ出場するが、規定により同じ学校からの出場は一人のため、山本君の代わりに、4位に当たる南国市立北陵中3年茂松弥里さん(15)が出場する。

県大会には、弁論部門の18人と暗唱部門の14人が、保護者ら約1000人が見守る中、身ぶり手ぶりを交えて練習の成果を発揮。英語の発音や表現力、内容など

☆全国大会出場も

棋道部

- 文部科学大臣杯第2回小・中学生 将棋団体戦 個人 一圓健太
- 第30回文部科学大臣杯 全国高校囲碁選手権大会 個人 竹内千翔
- 第27回文部科学大臣杯 少年少女 囲碁大会 個人 前川花野
- 第30回全国高等学校総合文化祭 将棋部門 個人 玖波井麻人、団体
- 第26回全国中学生選抜将棋選手権大会 個人 一圓健太
- 第30回全国高等学校総合文化祭 囲碁部門 個人 竹内千翔

放送部

- NHK杯全国高校放送コンテスト 石川由季 準決勝進出
- 第30回全国高等学校総合文化祭 放送部門 石川由季 田村 望、井澤尚子

文芸部

- 第30回全国高等学校総合文化祭 石原由美、高橋風香



全国中学校体育大会

弓道 個人 別役政隆

☆他にも

全国高校生クイズ本戦出場

玖波井麻人
松岡峻之
川谷 淳





がんばる

文

両

☆2006 高校県体

【団体】

- 優勝 登山 (3年連続)
- 2位 ハンドボール (男子) 剣道 (男子)
- 自転車 テニス (女子) 水泳 (男子)

【個人】

- 優勝 陸上 男子1600mリレー、八種競技 宮本大地
- 空手道 組手・川田貴大
- 自転車 4キロチームパーシュート、
4キロ速度競走・森稔博
ポイントレース・山下晋
- テニス 女子シングル・森頼里菜
- 水泳 1500m自由・藤原有吾



☆2006 中学県体

【団体】

- 優勝 ハンドボール 男子 (2年連続)
- 2位 バドミントン 男子

【個人】

- 優勝 陸上 男子走り幅跳び・松岡優毅
- 女子800m・小野未侑、1500m・小野未侑
- 水泳 男子50m自・品田亮太
- 女子100mバタフライ・森下智恵
- 200mバタフライ・森下智恵
- 2位 陸上 男子1年100m・小笠原真 三段跳び・松岡優毅
- 水泳 男子400m個人メドレー・尾立憲彦
- 女子200m自・中平早紀



二〇〇六年大学入試を振り返って

進路部長 岡松 宏明

(1)合格の状況

国立大学	現	浪	計	進学
北海道大	1	1	2	2
東北大	2	1	3	2
山形大		1	1	
筑波大	5	1	6	5
東京大	4	2	6	6
東京外国語大	2		2	2
東京学芸大	3	1	4	4
東京工業大	2	2	4	4
東京農工大		1	1	1
一橋大	4		4	4
横浜国立大		2	2	2
金沢大	1		1	1
静岡大	1		1	1
名古屋大		1	1	1
滋賀大		1	1	1
京大	8	2	10	10
京都工芸繊維大		2	2	2
大阪大	8	3	11	11
大阪外国語大	1		1	1
大阪教育大	1		1	1
神戸大	7	4	11	11
岡山大	8	2	10	9
広島大	4	3	7	6
徳島大	4		4	3
香川大	1	1	2	1
愛媛大	4	1	5	5
高知大	12	10	22	20
九州大		3	3	3
佐賀大		1	1	1
宮崎大		1	1	1
計	83	47	130	120
昨年	101	46	147	123

公立大学	現	浪	計	進学
高崎経済大		1	1	1
首都大学東京	1		1	1
都留文化大	1		1	
静岡県立大	1		1	1
名古屋市立大		1	1	
京都府立大	1	1	2	2
京都府立医科大	1		1	1
大阪府立大		1	1	1
大阪府立大	3	1	4	3
神戸市外国語大		1	1	1
兵庫県立大	3		3	1
下関市立大	1		1	
高知女子大	1		1	1
計	13	6	19	13
昨年	13	12	25	21

私立大学	現	浪	計	進学
北海道工業大		1	1	
北海道医療大		1	1	
文教大	2		2	
千葉工業大	2		2	
帝京平成大	1		1	
青山学院大	5	3	8	1
亜細亜大		1	1	
桜美林大	2		2	1
学習院大	3		3	1
北里大	2		2	
共立薬大		1	1	1
杏林大	2		2	
慶応義塾大	12	5	17	5
國學院大	2	1	3	1
国士館大	1		1	1
駒澤大	1		1	1
芝浦工業大	1	1	2	
順天堂大	1		1	
昭和		1	1	
上智大	5	4	9	3
成蹊大		3	3	1
成城大	1	2	3	
聖路加看護大	1		1	
専修大		2	2	1
大東文化大	1		1	
中央大	18	4	22	6
津田塾大	1		1	
帝京大		1	1	
東海大	3		3	1
東京慈恵医科大		1	1	
東京女子大		1	1	
日本女子体育大	1		1	1
東京電機大	3	1	4	2
東京農業大	3		3	
東京薬科大	3		3	
東京理科大	10	5	15	3
東洋大	1		1	
日本大	3	9	12	5
法政大	4	8	12	2
武蔵大		2	2	
武蔵野音楽大	1		1	1
明治大	6	7	13	4
明治学院大	3	3	6	3
明治薬科大	2		2	1
立教大	6	5	11	4
和光大	1		1	
早稲田大	19	5	24	11
準大学				
防衛大	2	1	3	1
防衛医科大高等看護	1		1	1
職業能力開発総合大	1		1	1
航空保安大		1	1	
計	4	2	6	3

私立大学	現	浪	計	進学
東京工科大	1		1	
日本社会事業大	1		1	1
麻布大		1	1	
神奈川大	1		1	
中大	1		1	
豊田工業大		2	2	
愛知医科大		2	2	
京都外国語大	1		1	1
京都産業大	4	2	6	1
京都女子大	3		3	1
京都薬科大	1	5	6	4
同志社大	27	18	45	18
同志社女子大		1	1	1
立命館大	59	33	92	15
龍谷大	4	6	10	
大阪医科大	1		1	
大阪経済大	2		2	1
大阪芸術大	2		2	
大阪歯科大	1		1	1
大阪電通大	3		3	
大阪薬科大	1	4	5	2
大阪大谷大		2	2	2
関西大	19	10	29	6
関西医科大	1	1	2	1
近畿大	7	7	14	
摂南大		1	1	
山手学院大		1	1	
順心会看護医療大		1	1	1
関西学院大	18	19	37	9
神戸学院大	9	3	12	3
神戸女子大	2		2	1
神戸薬科大	2	5	7	
神戸親和女子大		1	1	
兵庫医科大		1	1	
武庫川女子大	1	4	5	
奈良大	1		1	
美作大	1		1	
倉敷芸術科学大		1	1	1
広島経済大	1		1	
福山大	1		1	
徳島文理大	2	1	3	1
四国学院大	1		1	1
高松大	1		1	
高知工科大	4		4	2
長崎国際大		1	1	1
計	317	211	528	136
昨年	269	221	490	131

その他	現	浪	計	進学
短大・通信大	1	1	2	2
留学	2		2	2
専門学校・他	1	1	2	2

二〇〇六年度は新課程初年度にあたり、入試科目・教科内容においてもさまざまな変化がありました。そのような状況のなか実施された今春の大学入試センター試験ですが、新規導入のリスニングテストも含め内容は去年よりも全般にやさしくなり高得点者が続出しました。五教科型受験者の全国平均は昨年より三〇点アップとなり、その傾向は本校でも同様でした。九〇％以上の得点者が前年の三名に対して一〇名、八〇％以上は前年のほぼ倍の八〇名と、ここ数年と比べても大幅に伸びました。センター試験が易しかった結果、受験生は全国的に強気の出願をする傾向が顕著で、少子化の流れの中にあるながら全国の難関大学の志願者は前年より増加しました。本校でもこのセンター試験の好結果が、もともと強気だった志望を後押しすることになりました。

合格状況は全般に好調でした。難関一〇大学(旧七帝大+一橋+東工+神戸)合格者が五五名、さらにそのうちの最難関四大学(東大・一橋・東工・京大)の合格者

支部だより

関東支部

二宮 潔 (49回生)

昨年同様、猛暑の続いた今年の夏も、台風13号の列島縦断とともに、やっとおしまい。関東地方も漸く秋めいて来ました。高知在住の同窓生の皆様には、お変わり無く健やかに、実りの秋本番をお迎えのことと存じます。関東支部HPで櫓を組む作業中の高三生の写真を拝見しました。今年も九月二三日の大運動会が楽しみです。

(11) 支部だより

さて、今年の関東支部の活動は、一月二三日例年通り筆山会の新年会からスタート。長らく会長の重責を担って頂いた吉澤信一さん(16回)に代わり、岡崎昌生さん(23回)が新会長、山本高敬さん(25回)が副会長にそれぞれ就任されました。続いて二月一八日の学年幹事会で今年度の活動方針を確認し、六月一〇日には恒例の大イベント「関東支部総

会・懇親パーティー」を東海大学校友会館(霞ヶ関)にて開催。今年の世話役「下一桁六の回生」の企画・進行は36回生のリーダーシップよろしく、例年にも増して卓越したチームワークによる見事な内容で、参加した三百余名の同窓生を唸らせました。来年(6/2)は新装なった三菱クラブ(丸の内)に会場を移し、バトントッチを受けた「七の回生」が、既に準備に入るといふ気合の入れようで、まっこと楽しみです。

また素晴らしいチームワークを發揮しました。その後、ガーナの高校生たちは高知へ向かい、橋本高知県知事を表敬訪問、土佐高校での授業参加や、ホームステイも体験し、大満足で帰国の途につきました。

なお、今年特に印象深い出来事の一つに、昨年末から半年余りに渡った80回生の戸田浩司君支援、並びに骨髄バンク八万人登録運動(継続中)があります。その一端は既に筆山(四〇号)で

紹介しましたが、拙稿提出後、間もなく戸田君の元気な生還が実現したことは、何よりも悦ばしく感動的なことでした。八月一二日の本部総会における戸田君父子の嬉しいご

NEWS

山本有二さん (46回生)

山本 有二金融相

「保険金のない人が増えている。契約者を守る形で、保証制度を設けなければ、経営リスクが大きい。銀行は、一時的に金利を上げる受取った。銀行は、一時的に金利を上げる受取った。銀行は、一時的に金利を上げる受取った。」

貸金業規制は期間必要

「貸金業規制は期間必要...」



が二四名と最近一〇年の統計を取ってみると最高の人数となります。あわせて早慶上智五〇名、関関同立二〇〇名超、国公立医学部医学科一五名(うち現役一〇名)は地方の進学校としては立派な成績だと思えます。難関にひるまずチャレンジする本校の生徒の気質が今年も貫かれ、それが好結果をもたらしたと考えられます。

今年の結果を更に引き継ぎ、生徒一人一人が来年度も目標とする進路に進むことができるようがんばっていききたいと考えています。

報告とご挨拶は、参加者みんなの胸を熱くさせてくれました。感動をありがとう。そして戸田君の今後の順調な経過を願うと共に、一日も早い復学と将来の教師としての旅立ちを心待ちにしております。併せて、支援運動に協力して下さったスーパードバンドのメジャーデビュー（日本ビクター）にも大いなる成功のエールを送りたいと思います。

末筆ながら、同窓会本部の皆様のご健勝と母校の新校舎建設ほか創立百周年記念事業の着実な前進を祈念し、支部報告と致します。以上

東海支部

利岡 明憲（41回生）

同窓会の皆様、こんにちは。本年度より東海支部幹事となりました。最近、マスコミ等で何かと取り上げられます「団塊の世代」の第一期生で、受験競争・企業内出世競争、そしてリストラを一通り経験し、二年前より自宅のある名古屋市内に落ち着いています。東海（名古屋）地区は、現在、東京と並んで活気があると云われていますが、毎日生活して

いる者としても実感しています。特に、他地区に向いて、名古屋に帰った時、そのように感じます。何となく、トヨタ自動車の好調な販売により、トヨタ自動車及びトヨタ関連会社の生産が活発な事ですが、世界の次世代ジェット機の一部製品を生産する国内各社の主力工場が東海地区に新設されており、自動車を筆頭に世界をリードする商品の生産が活発です。

従来より、東海地区は東京・関西地区に比べ、郷里土佐との関係は希薄であり、高知県外に在住されている同窓会会員数にも出ています。東海地区に住む者として、今後、国内企業各社が東海地区の生産・販売拠点を一層拡充することが想定されますが、その結果として、同窓会会員の皆様が多くなり、東海支部が発展できればと願っております。

本年一月よりNHKで放映されています「功名が辻」を毎週欠かさず観ていますが、九月迄の舞台は東海地区・北近江地区であり、早く土佐を舞台にした場面を観たいと思っております。当方の不勉強だったのですが、主人公「山内一豊」の出生地は名古屋市北部に隣接する岩倉市であり、「妻千代」は岐阜県内某地区（一、二箇所の説）と、ドラマによ

り知りました。歴史的には東海地区と郷里土佐とは大きな関係がありませんので、このドラマを契機に東海地区と土佐の新たな交流が出来ればと思います。

最後に、本部・各地区の皆様のご健勝を祈念いたします。以上

関西支部

原田 和人（56回生）

関西支部事務局より今年度の活動をご報告申し上げます。

今年度の総会・懇親会は二月四日（土）にザ・リッツ・カールトン大阪にて開催されました。ご来賓一名を含む九四名の出席でした。

懇親会では、出席者全員が年代を越えて土佐中高卒業生として親交を深めることが出来ました。最後には全員鳴子を手に、恒例の『よさこい踊り』で一気に盛り上がりました。また同窓会本部・各支部の連絡協議会も同日開催されました。

関西支部では機関誌『なんぶう』の編集・発行も行っております。『なんぶう』は一六ページほどの冊子ですが、関西支部会員の皆様から寄せられた記事を主体に構成されていま

す。また各支部や母校の近況も紹介させて頂いております。今年もより多くの新しい方に登場して頂きたいと思っております。

さて、関西支部はこれまで一、二月に行ってきた総会・懇親会を来年度より四月開催に変更することに致しました。開催日、場所は次の通りです。

●二〇〇七年四月二十一日（土）

●都ホテル大阪

（大阪市天王寺区上本町）

電話〇六一六七三一一一一

過ごしやすい季節に開催いたしますので、より多くの皆様にご出席を頂いて、今年以上に盛り上げていきたいと思っております。『総会案内』ならびに次号『なんぶう』（二七号）の発送も二〇〇七年一月に予定しております。

最後に、同窓生の皆様のご健康を祈念致しまして関西支部だよりとさせていただきます。

【関西支部事務局】

〒530-6001 大阪市北区天満橋1-8-30 OAPタワー1F MBE210
電話090-1073-7822
Eメール harada73@hotmail.com



広島支部

小島 康(37回生)

九月一日の情報収集衛星打ち上げ成功のニュースに安堵の胸をなでおろしました。去る八月一二日の本部総会の会場で、37Kホームの竹本修文氏(宇宙航空研究開発機構構監事)にばったりお会いし、「九月一日に種子島からロケットを打ち上げるき」と、生き生きとしたお顔でおっしゃっていたからです。この出会いのチャンスを逃してなるものかと厚かましくも来年以降の広島支部総会の講師をお願いし、名刺をいただきました。

(13) 役員会ひとつ開催するにも、皆さんの都合がつかず四苦八苦しますが、同窓会運営に当たっての幹事の心配事は、支部会員の増員と講師の確保です。広島大学が広島市内から東広島市に移転したこと、若者の対人関係の希薄、個人情報保護法の制定、各企業のモザイク雇用(先輩を頼っての就職活動をしなくなった)など、社会情勢の変化が禍して、会員の増員は難儀な課題です。講師の件はいつも頭から離れない心配事ではありますが、アンテナを張って同窓生の動向に気をつけていけば、支部発足以来一八年間なんとかクリアしてきました。毎回、ご専門を極めた

同窓生のお話を至近距離で拝聴する時間は、一介の主婦にすぎない私など、この上ない贅沢なひとときです。

ところで、一七年度の広島支部総会は、平成一七年一月一二日にご来賓一〇名をお迎えし、総勢三二名で例年通り広島県民文化センターで開催されました。講師は尾池和夫京大大学院総長(34回生)で、演題は「地震を知って震災に備える」。学術的なお話とは別に、地震国である故の地質・地形によって産み出された茶の湯、湯豆腐、温泉、自然の美しさなど、我が国特有の文化、自然があるところとちよつと違った見方のお話、会場が和みました。「広島は将来どの程度の地震が起こるか」の質問に「震度七はない。六はあつても建築基準法を守っていればよい」とのお答えに支部会員胸を撫で下ろしました。

尾池総長は、土佐高時代34回生Oホームで、かつてはクラスメートだった葉子夫人を伴われてご出席なさいました。広島支部名誉会員の竹村照雄氏(20回生)、沖修一広島支部長(40T)、末政克年氏(37K)などこの時はご夫人同伴者が多く、例年にも増してアットホームな雰囲気

の集いとなりました。個人的なことになりますが、尾池総長の御母堂様には娘時代に二年間お習い事のご指導をしていただきました。当時総長は京大の大学院生で

いらつしゃつたと思います。婚約者の葉子様の出入りがあり、私達御母堂様の生徒は「あの方が、ご子息の婚約者よ」と羨望の眼差しを送つたものです。その後四〇年の歳月を経て、この様な巡り合わせもあるのかと年齢を重ねるとは、こういう楽しみも待っているのだなあと嬉しくなつてまいりました。

ところで、平成一八年度の広島支部総会は、一月二五日(土)に広島県民文化センターにて開催されます。講師は筒井康賢氏(41回生)です。宮島・岩国錦帯橋の紅葉が正に見頃です。是非おでかけくださいませ。

(尚、長年広島支部の「青春の集い」の会場であった「梅太郎」が、常連の皆さんに惜しまれて、七月三十一日を以て閉店しました)

香川支部

宮地正隆(36回生)

香川支部の総会は「七夕総会」と称して毎年七月第一土曜日に開催しています。今年七月一日(土)に、学校・本部・他支部からのご来賓六名、会員三八名、計四四名のご参加をいただき、大いに盛り上がる事ができました。

総会は、一昨年より、JR高松駅・高松港周辺地区の再開発により誕生した「サンポート高松シンボルタワー」で開催しています。高松駅周辺では、皆さんの記憶に残っている宇高連絡線の棧橋や土讃線につながる長い陸橋はもはや姿を消し、今やモダンな駅舎やシティホテルが立ち並び、ちよつと洒落たウォーターフロントになっています。その中でも、一際目立つたシンボルタワー内の会場で、瀬戸内海の夕暮れをバックに、今年も一年ぶりの大変楽しい時間を過ごすことができました。

今回は、これまで長く支部長を務めた土田前支部長(32回)より、支部長交代のお話をいただき、本年度より私が支部長職をお引き受けすることとなりました。微力ではありますが、これからも香川支部の発展と会員間の交流促進に力を尽くして参りたいと思います。今後とも皆さまのご支援、どうぞよろしくお願ひいたします。

来年の香川支部総会は、まさに七月七日(土)の七夕の日に開催する予定です。ご都合の許す方は飛び入りでも結構ですので、是非ともご参加ください。

北海道支部

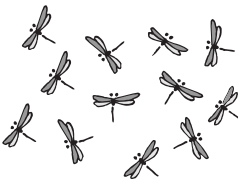
島村 昭範 (49 回生)

北海道支部は生まれればかりの少人数の支部ではありませんが、この一年で様々なトピックスがありました。

まず、田原哲士支部長(37 回生・北海道大学教授)が「フラボノイドの生態生物学に関する研究」により、平成一八年度日本農芸化学会功績賞を受賞しました。

また、窪田秀忠幹事長(38 回生)が(株)富士メガネ(本社・札幌市)の社長に就任しました。(株)富士メガネは、二〇数年にわたり、世界各地に赴き難民に眼鏡を無償で寄付してきた業績により、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)からナンセン難民賞を受賞しました。これは日本初の快挙で、外務省やマスコミ関係等から賞賛の声が寄せられています。平成一八年度北海道支部総会では、この活動について窪田幹事長が記念講演を行います。

昨春に高知県観光コンベンション協会北海道事務所の初代所長として赴任していた川竹大輔事務局長(63 回生)が、昨年一月に高知県安芸市助役として転身しました。今年七月になって、北海道新聞社勤務の先川信一郎幹事(45 回生)が東京支社に転任しました。また、役員の中で最も若い岡佐和広報担当幹事(78 回生・北海道大学四年生)は、広報原稿作成や関東支部総会出席などで活躍しています。来春には就職により北海道を離れる見込みです。このように役員の間も落ち着かない状況ではありますが、役員体制の見直しを図り、支部活動を充実していきたいと考えております。今後とも本部ならびに各支部の皆様への暖かいご支援をよろしくお願いたします。



校歌・応援歌の CD 製作にあたって

同窓会から CD 製作の企画を提案していただいたとき、最初は不安に思いました。卒業記念品になる、また各同窓会での使用など、多くの方に聞いて頂く録音となると「うちの生徒の演奏で大丈夫かな？」と不安になりましたが、しっかりと演奏しようとする生徒とともに気合を入れて引き受けました。

レコーディング当日はあいにくの大雨で集まった生徒たちは集合した時点で疲れきっていました。音響の方も到着され、ゆっくりとセッティングしていくなか、スタッフの方はのんびりとされた良い方ばかりで最初は緊張していた生徒たちも、準備が進むにつれリラックス出来ました。昼休憩後各自ウォーミングアップをはじめ、予定時刻に録音の準備が整いました。

校歌・応援歌の楽譜は難かしくないので、レコーディング形式での録音は、私も生徒も初めてで緊張しました。納得のいく聴きかしくない演奏が出来るまで、何度も何度も録り直しをしました。なんとか録音が終わったときには、みな疲れきっていましたが、とても楽しかったです。

同窓会の皆様にはこのような機会を設けていただいた吹奏楽部へ同感謝しています。とてもいい経験となりました。またこれからも、本校でのホームカミングデーなど、OBの方々にも現役生徒との交流のお手伝いが出来たら幸いです。

顧問 川 B 仁哉 (74 回生)



二〇〇五年度 物故者名簿 (二〇〇六年八月一日現在)

18・4・11	岡林 正人 (60 S)	18・7・9	窪田 莊穂 (33 O)
18・3・7	小川 淑人 (34 S)	17・11・20	北村 旬永 (33 K)
18・1・25	浜田真佐枝 (34 K)	18・7・2	利根 洋一 (49 T)
18・3・2	田村 至敏 (36 O)	18・4・8	岩崎 正剛 (31 K)
17・12・30	野口 真伸 (41 O)	18・3・26	大倉 美真 (25)
17・9・14	下田 曜子 (47 N)	18・4・6	毛利 治 (18)
18・1・5	國藤 和廣 (33 H)	18・5・17	斎藤 和夫 (15)
17・12・	窪田 陸士 (33 S)	18・2・22	谷 辰二 (17)
平 14・7・2	松村 広樹 (33 S)	18・4・3	上田 栄蔵 (18)
18・4・18	山本 順三 (29 O)	18・7・27	徳弘 英策 (34 T)
18・4・10	和田 堯 (29 K)	18・7・19	北村 旬永 (33 K)
18・4・11	岡林 正人 (60 S)	18・7・9	窪田 莊穂 (33 O)
18・7・14	濱 B 隆次郎	17・10・23	宇都宮秀哉 (47 N)
18・7・27	島村 素有 (26)	17・9・28	大住 高史 (32 H)
18・1・4	丸山 億 (27)	18・1・14	田中 宏明 (47 T)
17・7・7	田中 宏明 (47 T)	17・10・23	宇都宮秀哉 (47 N)

振興会活動報告

会長 徳永 俊一

この四月より振興会の会長を仰せつかり、土佐校の同窓会の皆様に初めてご挨拶をさせていただきました。この半年の間にも、宮地同窓会会長はじめ多くの同窓会の皆様から助言とお力添えをいただき、振興会役員一同、感謝に堪えません。

現在、新校舎建築、TSL（教職員の皆様の自己申告による研修プログラム）の運用、土佐校独自の奨学金制度の検討など、学校・同窓会・振興会が協力一致して取り組まなければならぬ課題が多くあります。いずれの課題についても、同窓会の皆様の物心両面での積極的なご協力なくしては実りある成果はおぼつかない事と思われまます。

私も土佐校の同窓生の一人でもあります。現在、又、これから土佐校に子供たちを託す親の立場でできる事、土佐校を愛する同窓生の皆様のご協力によってできる事、いずれもが土佐校のますますの発展の為の大きな力となって行くことは間違いありません。

(15)

我々振興会は、現役の生徒が土佐校の人材教育を余すことなく享受で

きるよう、また、同窓会の皆様方が、土佐校の同窓生であるとの誇りをいつまでも持てるよう、土佐校の更なる飛躍のために、精一杯活動していく所存です。今後とも、振興会活動にご協力下さいますよう、衷心よりお願い申し上げます。

顧問	顧問	顧問	顧問	理事	理事	理事	理事	理事	監事	監事	副会長	副会長	副会長	会長
上岡まゆみ	筒井善樹	田中佳代子	国見直樹	竹内多恵子	田所智子	高木直之	福島高明	西村希多子	島巻淳	山本道也	島内祥宏	久松朋水	北村恵美子	徳永俊一

編集後記

今年の夏もいろいろありましたが、よさこいで話題を2つ。1つ目は、スーパーよさこいでガーナの高校生と一緒に土佐高生・OGが参加したこと。この後、ガーナの高校生は来校し、始業式にも参加して交流を深めました。

2つ目は、今年新たに79回生がよさこい「陽」を立ち上げ、楠目先生（51回）が地方車を運転しました。よさこいについては、来年に向け、ある計画が秘かに進められているとか。お楽しみに…。

3回目となったホームカミングデーも盛況のうちを終了。若いスタッフが増えたことが、今年の特徴だったように思います。若いエネルギーは、活動の場をホームカミングデーから、さらに発展させようとしています。おじさんはぼちぼち応援団の方に、なんて考える今日この頃です。

さて、校舎建築計画を考えると、来年のホームカミングデーは現校舎では最後？ 新校舎に最初に入った当時の高三生（47回）は高校棟がなくなる前にもう一度集まろうとしています。

岡田容典（47回生）



「陽」の踊り子たち



「スーパーよさこい」のOGたち



土佐校始業式のガーナ高校生



冠すゝ土佐の名に叶へ



2006.9.23 (sat)
伝統の「大運動会」開催



- ◆Tシャツ (1,500円)
- ◆タオル (1,000円)
- ◆ストラップ (500円)
- ◆キャップ (500円)
- ◆缶バッジ (100円)
- ◆CD (校歌・応援歌/記念品)



歴代運動会のパネルを作りました。
学校に展示・保管しています。
同窓会等に貸し出しOKです。

同窓会オリジナルグッズ 少しずつ増えてきました。お問い合わせは同窓会事務局まで。